

◆ 目次 ◆

- 1 「伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶」
- 2 「総領事館からのお知らせ」
- 3 「寄稿」
- 4 「領事便り」
- 5 「広報・文化便り」
- 6 「日本関連行事等のお知らせ」
- 7 「政治」
- 8 「経済」

1 伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶

寒い日が続きますが、皆様お元気にご活躍のことと存じます。

本年も残すところ2週間となりました。この1年、邦人の方々におかれましては大きな事件も起こらず、皆様と無事に年を越せることを大変欣快に思います。

様々なことがありましたが、就中、日本では令和の時代を迎えましたことは、新しい時代、新しい日本の始まりとして歴史に残る1年となりました。

着任以来、先ずは当地における邦人の方々の便宜、安寧を最優先に考え、領事サービスの適切な運用に加え、教育や医療等の生活環境の改善に資する取り組みに努めてきました。特に、教育分野では、補習校のお手伝い加えて、各地の日本語センターの活動の支援に取り組みました。先日行われた各地の日本語センターの代表者の方々とのTV会議は大変参考になりました。本年日本政府は、海外における日本語教育の充実をも念頭において、日本語教育の振興に関する法律を制定しました。海外で生活される日本人の子女にとって、日本語は日本人としての意識の中核になります。こうした日本政府の動きを参考にしつつ、引き続き日本語教育の支援に努めて参ります。

医療につきましては、現地の制度が日本の制度と大きく異なり、複雑なため、特に新たに赴任されてきた邦人の方々にとって戸惑うところが多々あると思います。当地での生活での不安を少しでも少なくするために、引き続き様々な機会に医療について情報を提供していきたいと考えています。

この1年、日本とケベック、モンリオールとの関係では新たな動きが見られました。経済分野では航空産業、資源産業、AIやソフト分野でいくつかの大きな案件が動いています。人の交流の分野でも、昨年の成田直行便の就航以来、相互に訪問客数が大きく増加しました（因みに、来年、訪日人数で、カナダは欧米諸国の中で米国、豪州について第3位になる見通しです）。訪日

経験者の増大に伴い、日本に対する理解や関心が更に高まっていると感じます。また、和食や日本文化に対する関心も着実に広まっていると感じます。更に、クリー族に代表される当地の先住民との交流も始まりました。こうした中、先日行われたフィッツギボン・ケベック州経済・イノベーション大臣の訪日は大成功だったとの連絡をケベック州政府側から頂きました。ケベックとのあらゆる分野での関係強化に向けて、来年も引き続き、ハイレベルの交流を追求していきたいと考えています。

最後に、皆様におかれましては、良き新年をお迎えください。

2 総領事館からのお知らせ

(1) 2019年12月、2020年1月の休館日のお知らせ

2019年12月24日(火) Christmas Eve (任国の休日)

12月25日(水) Christmas Day (任国の休日)

12月26日(木) Boxing Day (任国の休日)

12月30日(月) 行政機関の休日(年末休暇)

12月31日(火) 行政機関の休日(年末休暇)

2020年 1月 1日(水) 元日(New Year's Day)

1月 2日(木) 行政機関の休日(年始休暇)

1月 3日(金) 行政機関の休日(年始休暇)

3 寄稿 ~モントリオールアカデミー会 副幹事 富田 紀男~

“あなたの経歴はとてもユニークだ。是非残って欲しい。モントリオール大の博士学生になりなさい!”

今年8月頭、インターン中の研究室の教授からそう言われて私の人生は大きく動きました。大慌てで入学の申し込みをしたのは生体医工学科。研究室は超音波画像診断技術の専門です。通常そんな時期の申し込みなら来年度の入学になるのですが、入学時期の前倒し変更というウルトラC手続きも行われて、9月から博士学生に。モントリオール大学病院研究センター、通称 CRCHUM に通う日々が始まったのでした。

私は元々病院で使われる超音波診断装置を開発するエンジニアでした。日本の医療機器メーカーで長く開発に携わった後、東西医学を繋ぐことを夢見て、渡米を期に整体の道に進みました。東西複数の整体技術を身につけましたが、痛い所に触れずに別の部分を緩めて治す日本の技に出会って、私の中でスイッチが入ってしまいました。

例えば腰痛なら足の強張りを、首肩なら腕や手の強張りを取ることで、患部に殆ど触れずに痛みを取るのです。そして幸いな事に私は手や体の感覚が鋭敏であるらしく、人の体内の緊張の繋がりを如実に感じ取って、かつ緩める事が出来る様になりましたが、私のこの手の感覚や緊張の

繋がり仕組みが説明出来ない。ならばこの仕組みを研究して博士を取ろう。それが50も近づこうというこの年齢で研究を志した理由でした。

そもそもなぜモントリオールに居るのか、ですか？それは美しいケベコワと結婚したからです！妻は大学卒業以来20年以上日本に住み、働いてきましたが、東北大震災を機に彼女が立ち上げたボランティア団体に、私が参加した事で我々は出会いました。宮城県石巻市の津波浸水被害のあった地域で、工場や各家屋に詰まった海のヘドロを清掃して回る作業で、毎週末数十人のチームを編成してボランティアに向かいました。

結婚することになった時、”僕らが結婚したら、僕はカナダ人になるの？”なんて今で思えば相当呑気な質問を妻にしたのですが、”そんなはずは無い”と即座に否定されつつもそこから話は広がり、モントリオールに行ってみよう！ということになったのでした。私はNYの仕事もあり、映像プロデューサーである妻にとっては、世界中のテレビ番組が売買される一大マーケットのあるモントリオールは映像制作会社も多く、2人にとって良い拠点となりそうだったのです。そして、妻の大家族は皆私を暖かく迎え入れてくれました。義父は13人兄弟で、妻は父方だけで48人も従兄弟がいるのです！

モントリオールに来るに当たり日本人会を探してみると、アカデミー会が見つかり、加えて頂くことになりました。研究者が主体の日本人会というのは他の都市に比べても独特です。なぜならここモントリオールではマギル大学の研究室に留学してくる医師の方が多く、互助会が出来ているのです。

会の発足はその昔、1人の日本人研究者が自死された悲しい歴史に始まりました。それを憂慮されたマギル大名誉教授の柴田先生と領事館が協力して会を立ち上げられ、50年以上続いています。企業等の組織的な支援が無い研究者達の生活の立ち上げを支援し、研究の悩みや長い冬で孤立する事が無い様に、定期的に講演会やBBQ等交流の場を設けています。

柴田先生は長年日加医学研究交流に貢献してこられた御功績から、過日令和天皇即位の礼に日系カナダ人代表としてご招待を受けられました。今も会長としてアカデミー会を支えて下さっています。会は幹事の佐藤先生ご夫妻のご尽力で活動を続けており、私も副幹事をさせて頂くことになりました。基本的な生活情報や写真などはホームページで一般にも公開しています。どうぞご参考になさってください。 <https://www.montreal-academy.com/>

さて、CRCHUMは北米有数規模の医学研究拠点となっていて、140人の教授陣、330人の研究員、そして450名の大学院生が研究を行っており、毎年900本もの研究論文が発信されています！母体となるモントリオール大が、フランス語圏でパリ大学に次いで世界第2位に大きな大学であるがゆえに、フランスからの留学生も非常に多いのが興味深いです。フランス語系の大学ですが、英語しか話せない留学生も多く受け入れられていて、国籍はとても多様です。

私の研究室は14階建ての大きな建物の11階にあり、入ってみると、私が日本で見てきた各時代の最先端超音波装置達がずらりと並び、さながら歴史博物館の様でした。加工室、冷蔵室な

どなどあらゆる設備が揃っており、博士学生でも大きな机を一つ与えられました。各階各研究室のドアはセキュリティロックされていて、カードキーで解錠するのですが、まるで映画に出てくる秘密機関で働いているかの様でワクワクします。

まだ私の研究は始まったばかりで、関連研究調査をしながら研究計画を立てていく段階なのですが、興味深いのは、学生は皆工学系教授プラス医学系教授といった具合に皆領域を横断する2人の指導教授を得ていることです。私の指導教授は放射線科医で、副指導教授に工学系教授がついて下さっています。こうして領域を横断した研究活動が促進される様にしているのでしょうか。そして、ハロウィンの様な季節ごとのイベントの際には同じ階に含まれる研究室合同でのパーティが企画されたり、CRCHUM 全体の催しも多く、研究者達が垣根を超えて交流し刺激し合う事を積極的に奨めている様子です。

なぜ離れた部位を緩めて痛みが取れるのか？そのヒントは最近話題の筋膜にありそうなのですが、そうした柔らかい組織はレントゲンやCTよりも、超音波診断装置が観察するのに強いのです。たまたま超音波技術者かつ整体師。そんな異色の経歴の私を受け入れてくれたこの地で、私の体性感覚と日本の整体技法、全身を見る東洋医学的視点、そしてそれを科学的に分析し証明する工学的能力、今までの経験全てを束ねて、工学で東西医学、そして日本とカナダを繋いで行きたいと思っています。

富田紀男
モントリオールアカデミー会副幹事
整体師 (Atelier Tomita)
モントリオール大学生体医工学科博士学生

4 領事便り

(1) パスポート・各種証明書の年内交付分の申請受付最終日について (再度のご案内)

パスポート・各種証明書の年内交付分の申請受付最終日を以下のとおりお知らせいたします。

○パスポート 12月17日(火)申請受理 → 12月27日(金)交付

○各種証明 12月19日(木)申請受理 → 12月27日(金)交付

○査証 12月17日(火)申請受理 → 12月27日(金)交付

上記の日より後に申請されたパスポート・証明書などの交付は、来年1月6日(月)以降になります。

帰国のための渡航書の発給など、人道上やむを得ないご事情がおりの方は、当館領事班までご相談ください。

電話 : 514-866-3429 (代)

(2) 戸籍関係届出書・警察証明申請書の年内日本送付のための当館受付最終日について (再度のご案内)

出生届、婚姻届などの戸籍関係届出書や警察証明申請書を、年内に日本へ送付することを希望される場合の、当館の届出・申請受付最終日を以下のとおりお知らせいたします。

○戸籍関係届出 12月18日(水)届出受理まで

○警察証明申請 12月18日(水)申請受付まで

上記の日より後に、届出・申請をされた場合、届出書・申請書の日本への送付は、来年1月10日(金)になります。

なお、戸籍関係届出書につきましては、届出書の種類によっては、直接、皆様から本籍地役場に郵送することもできますので、当館領事班までご照会ください。

電話 : 514-866-3429 (代)

(3) 当館管轄州での来年1月および3月の領事出張サービスについて

当館では、モントリオールから離れた地域にお住まいの皆様のために、領事出張サービスを実施しています。

来年1月および3月の領事出張サービスについて、以下の日程で実施しますので、お知らせいたします。

近隣にお住まいの皆様におかれましては、是非この機会をご利用くださいますよう宜しくお願いいたします。

○ケベック市領事出張サービス (再度のご案内)

日時 : 2020年1月26日(日) 午前10時~午後12時, 午後1時~午後3時

場所 : Maison Maizerets (2階)

住所 : Domaine de Maizerets, 2000, Boulevard Montmorency, Quebec, QC G1J 5E7

※ケベック-日本友好協会の新年会の会場の一部をお借りして実施いたします。

申込締切 : 2020年1月10日(金)

【詳細】 https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday_QC_20200126.html

○ハリファックス領事出張サービス

日時 : 2020年3月14日(土) 午後12時~午後4時

場所 : Halifax Central Library (Windsor Foundation Room (4F))

住所 : 5440 Spring Garden Road, Halifax, NS, B3J 1E9

申込締切 : 2020年2月28日(金)

【詳細】 https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday_halifax_20200314.html

領事出張サービスに関するご照会は、当館領事班までお願いします。

電話 : 514-866-3429 (代)

E-mail : consul@mt.mofa.go.jp

(4) 在留届内容確認のお願い

当館では、当館管轄地域にお住まいの邦人の皆様に、在留届をご提出いただき、テロや大規模災害等の緊急事態発生時に、皆様に必要な連絡ができる体制を整えております。

緊急事態に備え、また、より良いサービスの観点から、定期的に在留届のデータの確認・更新を行っていただく必要があります。

特に、(1) 滞在資格(長期滞在資格から永住権を取得)、(2) メールアドレス、(3) 住所(転居、帰国)、(4) 家族の追加(出産)等に変更があった場合に、在留届記載事項変更届のご提出がないケースが多く見受けられる状況です。

在留届をオンラインにより提出済みの方は、今一度、在留届をご確認くださいようお願いいたします。身分証明書を持参の上、ご来館いただけましたら、当館にて在留届を確認することも可能です。

緊急事態に備え、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

・在留届に関する詳細はこちら

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu/index.html>

・オンライン在留届(在留届電子届出システム(ORRネット))

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html>

在留届に関するご照会は、当館領事班までお願いします。

電話 : 514-866-3429 (代)

E-mail : zairyu@mt.mofa.go.jp

(5) モントリオール日本語センターからのお知らせ

～2020年度 新規幼児1クラス受講希望者受付のお知らせ～

来年度の新幼児1クラスの新規生徒を募集いたします。

対象 : 2016年4月2日から2017年4月1日生まれのお子様

下記のグーグルフォームに必要事項を入力し、お申込みください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScQt81d1wEH9DFDPg_tATiBGUmPhTCPZiP83Ne4VIVHtuqc-g/viewform?usp=sf_link

来年度の新幼児2・3クラスの新規生徒も募集しています。

対象 : 2014年4月2日から2016年4月1日生まれのお子様

下記のグーグルフォームに必要事項を入力し、お申込みください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfxPvon0Bwm2Rw0Ah5W-eLrI1BmSG_sPnUa2XzXpQ-qUUbKEA/viewform?usp=sf_link

5 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（culture@mt.mofa.go.jp）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

（1）日加修好90周年事業

ア マンガ・北斎・漫画—現代日本マンガから見た「北斎漫画」展

江戸時代に葛飾北斎が描いた「北斎漫画」と日本の現代マンガの接点や相違点を通して、日本のマンガ文化の魅力を紹介する展示会です。国際交流基金・当館の共催で開催します。（無料）

期間：11月16日（土）～2020年1月5日（日）

場所：Bibliotheque Riviere-des-Prairies, 9001 Boulevard Perras, Montreal

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/pdf/2019_Manga_Poster.pdf

6 日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様へのご参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんのでご了承ください。

ア Obsession : Sir William Van Horne' s Japanese Ceramics

モントリオール美術館にて、ウィリアム・ヴァン・ホーン氏のコレクションである日本の陶器展が行われます。

期間：11月20日（水）～2020年3月1日（日）

場所：Montreal Museum of Fine Arts

<https://www.mbam.qc.ca/en/exhibitions/upcoming/obsession-sir-william-van-horne-japanese-ceramics/>

イ Le Salon des metiers d' art de Montreal

当地在住の陶芸家、間由加里氏（Loft Stand #547.6）の作品が展示・販売されます。

期間：12月6日（金）～22日（日）

月～土曜：11時～21時、日曜：11時～18時

場所：Place Bonaventure

800 rue de La Gauchetiere Ouest, Montreal

入場無料

詳細はこちらから御確認ください。

<https://www.metiersdart.ca/en/salon-metiers-art-quebec>

ウ 2020年ケベックー日本友好協会新年会（ケベック市）

* 同会場で「領事出張サービス」が開催されます。

日時：2020年1月26日（日）11時～14時半

場所：Chateau Maizerets, Domaine Maizerets（2階）

2000, Boul. Montmorency, Quebec

会費：当日現金でご用意ください。

大人（13歳以上）：23ドル，7歳～12歳：12ドル，6歳以下：無料（6歳以下のお子様は昼食はご持参いただくか，12ドルのお弁当をお申し込みください。）

申込締切日：2020年1月19日（先着100名で終了）

* ボランティアで，パフォーマンスやお手伝いをしてくださる方を募集しています。

参加申込み及び問合せ先：ゴバン雅美氏 quebecjapon2018@gmail.com

<https://www.facebook.com/associationdamitiequebecJapon/>

エ Les Grands Chefs Relais & Chateaux 2020

大阪の料亭「柏屋」のグランシェフであり，ミシュラン3つ星シェフの松尾英明氏による夕食会がITHQ基金によって開催されます。

日時：2020年5月28日（木）18時カクテル，19時食事

場所：Casino de Montreal, 1, avenue du Casino

<https://www.ithq.qc.ca/ecole/fondation/actualites/article/les-grands-chefs-relais-chateaux-2020/>

7 政治

(1) ケベック（QC）州

・11月6日，ロベルジュ州教育大臣が，英語系モンリオール教育委員会を州政府の監督下に置くと発表。また，同教育委員会が疑わしい取引や入札手続きが不要になる分割契約を行っていたという調査結果を受け，同教育委員会の管理体制について州汚職防止常設ユニット（UPAC）に調査を依頼。

・11月7日，ジラル州財務大臣が，今年度中に7.9%の歳出増を発表。まず，認可保育施設における保育料金を2019年1月1日に遡及して1日あたり一律8.25加ドルに戻す。また，2020年1月より家族手当（allocation famille）を子供2人の家庭で750加ドル，子供3人の家庭で1,500加ドル増額する。更に2020年春から病院の駐車料金に上限を設ける。

・11月8日，州政府は，留学生向け州移民プログラム「ケベック体験プログラム（PEQ）」をめぐる規則厳格化を断念。同プログラムへの応募要件を厳しく制限しようとした州政府の動きに対し，野党を始め学术界やビジネス界が強く反発していた。

・11月11日，ケベック党（PQ）がトロワ・リヴィエールで開催した臨時党大会で，州独立運動実施の原則に関する宣言を採択。独立に向けた具体的な手順については言及なし。

・11月15日，ケベック連帯（QS）がロングイユで開催した党大会で，州独立を党の最優先事項とし，州憲法起草を含む政権獲得後，最初の任期中に行うべき具体的な施策を採択。

・11月20日，トルドー連邦政権の新内閣発表を受け，ルゴ州首相を含む複数の州閣僚は，

QC州が重視されていることが確認できるとし好意的に受け止める旨発言。36閣僚中QC州選出閣僚は10人。

- ・11月22日、州の黒字が年度最初の5ヶ月間で27億加ドルを達成したことが判明。ジラール州財務大臣は、QC州経済は引き続き好調であるものの今期後半にはわずかに減速するであろうとし、年度全体では14億加ドルの黒字目標を維持すると発言。

- ・11月25日、オンタリオ州議会がQC州の政教分離に関する州法21を非難する動議を全会一致で採択。

- ・11月25日、モントリオール市が2020年度予算を発表。固定資産税は個人向けで平均2.1%、法人向けで1.5%の増税。

- ・11月26日、ブレ州高齢者・介護者担当大臣が、完全個室や共用スペース等を完備した新しいコンセプトの高齢者介護施設設立プロジェクトを発表。州政府が26億加ドルを支出し、従来の高齢者向け施設（CHSLD）の一部も改修・再建し、2022年までに2,600部屋を用意する予定。

- ・11月29日、翌週に開催予定のカナダ州首相会議に先立ち、ルギー州首相がフォード・オンタリオ州首相と会談。両者は労働力不足に対応するためにより多くの移民受け入れが必要であることを確認し、連邦政府に対しては、州への医療補助金の年間5.2%増、米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）の早期締結を求めた。

- ・11月29日、ジロー州国際関係・仏語圏大臣が、州の新たな外交戦略を発表。在外州政府事務所を通して経済活動を強化しつつ、言語・文化におけるQC州の独自性をアピールすることを目指す。

（2）大西洋4州

- ・11月26日、大西洋州4首相が電話会議実施。翌週に開催予定のカナダ州首相会議では、連邦政府からの医療費補助、薬保険、天然資源開発、クリーンエネルギー等を議題として提案することに合意。

（3）ニューファンドランド・ラブラドール（NL）州

- ・11月1日、ボール州首相がケベック市でルギーQC州首相と面会。QC州道138号線のラブラドールへの延伸工事、ラブラドールとニューファンドランド島をつなぐ海底トンネル建設、NL州産水力発電エネルギー輸出等における協力について意見交換を実施。

- ・11月4日、州議会開会。議長選挙の結果、レイド暫定議長が新議長に選出。

- ・11月18日、ボール州首相は、2017年に実施を約束していた、イヌ（ラブラドールのファーストネーション）の子供たちの扱いに関する調査について、連邦政府の参加を取り付けるのに時間がかかっているとし、実施までにあと数ヶ月を要するであろうと発言。

- ・11月21日、今年5月の州総選挙で政権獲得に至らなかったクロスビー州進歩保守党党首がカリスマ性に欠けるとの内部からの批判も聞いているとし、2020年春に自らの信任投票実施を提案。

- ・11月26日、ボール州首相がトルドー連邦首相とオタワで面会。ボール氏は面会后、大赤字のマスクラット滝水力発電所の稼働に伴う電気料金的大幅値上げ緩和策が来年1月末までに発表

されることに自信を示した。

・ 11月27日、州公共事業委員会が委託先から受けたマスクラット滝水力発電所プロジェクトの進捗状況に関する報告書によると、プロジェクトには技術的な問題が発生しており、2020年はおろか2021年冬の稼働についても実現するか不透明であるという。

(4) プリンズエドワードアイランド (PEI) 州

・ 11月8日、州政府は、2020年4月1日から最低賃金を現在の時給12.25加ドルから12.85加ドルに引き上げると発表。大西洋州では引き続き最高額。

・ 11月13日、州議会は、臓器提供拒否を表明しない限りは提供に同意していると見なすための法整備を議会委員会が検討することを求める動議を可決。なお、ノバスコシア州ではこの考え方に従い、今年4月に北米初となる臓器提供法案が可決されている。

・ 11月20日、州議会は、政府から独立した児童福祉担当官 (independent child and youth advocate) ポストの設立を可能にする州児童福祉法改正法案を可決。

・ 11月21日、州議会は、電子タバコの販売を制限し、喫煙年齢を19歳から21歳に引き上げることを可能にするディーグル州進歩保守党議員が提出したタバコ・電子タバコ販売・アクセス法改正法案を可決。

(5) ノバスコシア (NS) 州

・ 11月4日、党首辞任を発表したメイ氏に代わり、ロバーツ氏が連邦緑の党暫定党首に任命。なお、同氏はNB州出身の元ジャーナリストで、10月の連邦総選挙でハリファックス選挙区から緑の党候補として出馬し、落選している。

・ 11月8～23日、マクニール州首相がアジア訪問。中国では山東・福建・広東の各省長を始め、運輸、観光、文化、教育関係者と面会。広東省文化観光省とは、NS州の文化発信を目指し覚書を締結。日本では海洋テクノロジー、韓国ではエネルギー関連のミーティング実施。

・ 11月8～21日、コルウェル農業・漁業・水産大臣が中国・ベトナム訪問。中国では一部の日程でマクニール州首相に同行。

・ 11月19日、州北岸ピクトウ・カウンティにおける新たな排水処理場建設許可取得を目指す製紙企業ノーザンパルプが10月に州環境省に提出した追加資料を検討した周辺自治体、ファーストネーション、漁業関係者等が共同で記者会見を開催し、数千ページに及ぶ資料には重要な情報が欠けているとし州政府に建設を許可しないよう要求。25日、環境省、漁業海洋省を含む連邦5機関も同追加資料の情報不足や不正確さを指摘し、同社の計画に対して懸念を表明。

・ 11月23～24日、伊澤総領事がハリファックス国際安全保障フォーラムに出席。

・ 11月29日、キンセラ・ハリファックス警察長官が、長年にわたる人種差別的な職務質問について、州黒人コミュニティに対して公式に謝罪。ハリファックスでは黒人は白人に比べて職務質問される回数が6倍多いという、今年3月の第三者機関による報告を州の法律家が分析した結果、警察の職務質問は違法であるとの結論を受け、州政府は10月に警察による職務質問を州全域で禁止した。

(6) ニューブランズウィック (NB) 州

- ・ 11月19日、州議会開会に先立ち、州内主要8市議会が州政府に対し、現在自治体に不利な条件となっている警察消防組合との団体交渉に関する州労使関係法の改正を要求。
- ・ 11月19日、州議会開会。マーフィー州副総督が読み上げた施政方針演説でヒッグス州進歩保守党政府（少数政権）は、厳しい州財政の中で医療、教育、自治体改革を進めていくと発表。
- ・ 11月19日、州政府は、一般消費者向けの炭素税課税計画を連邦政府に提出。現在、NB州は温室効果ガス排出削減対策が不十分とされ、連邦政府が定める炭素税が課税されている。
- ・ 11月22日、州議会は、マクリーン現州弁護士会副会長を次期州公式言語委員会委員長に任命することを承認。就任は今年12月、任期は7年間。
- ・ 11月22日、カーディ州教育・幼年期発展大臣が、公立学校と認可保育園に通う子供の予防接種原則義務付けを目指し、2度目となる関連法改正案を州議会に提出。信教の自由を含むカナダ権利自由憲章の適用を見合わせることを可能にする「適用除外条項」を使用した内容。
- ・ 11月26日、来年1月の州介護施設職員によるストライキ合法化に備えるべく州政府は、州介護施設職員によるストライキの実施人数制限や州の給与支払い能力の考慮等を盛り込んだ関連法改正案を州議会に提出。28日、複数の組合が同法案に断固反対を表明。
- ・ 11月29日、仏政府は、2022年の閉鎖を発表していた在モンクトン・フランス総領事館について、地元ビジネス界やアカディア人団体等からの強い懸念の声を受けて当該決定を撤回。
- ・ 11月29日、州議会が施政方針演説を可決し、ヒッグス州進歩保守党政権は継続。

（7）各州世論調査結果（未確定分は除く）

連邦下院選挙（政党支持率）

ア 州議会選挙（政党支持率）

・ QC州（レジェ（Leger Marketing）調べ、11月15～27日）：ケベック未来連合（CAQ）38%、ケベック自由党27%、ケベック党（PQ）19%、ケベック連帯（QS）10%、その他6%

イ 連邦議会選挙（政党支持率）

・ QC州（レジェ調べ、11月15～25日）：自由党33%、ブロック・ケベコワ（BQ）32%、保守党13%、新民主党（NDP）13%、緑の党4%、人民党（PPC）2%、その他1%

8 経済

（1）QC州

- ・ 11月1日、今年6月に270万人分の顧客情報が流出したと発表していた金融機関デジャルダン社は、流出したのは全顧客420万人分の情報であったと発表。
- ・ 11月5日、中国がカナダ産豚肉・牛肉製品禁輸措置を解除。禁輸措置開始以来大幅な収入減となっていた州内の関連企業にとっては朗報。
- ・ 11月8日、アマゾン・カナダが2020年末にモントリオール市ラシーヌ区に配送センターを設立すると発表。300人の雇用が創出される。
- ・ 11月11日、人工知能をベースとしたサービス・ソフトウェアソリューションを提供するモントリオールのエレメントAIが、世界第4の自動車部品製造企業アイシン精機と人工知能の説

明可能性に関する共同開発プロジェクトを開始。人工知能を活用し、アイシンが主にトヨタ向けに生産している部品の品質を高めるのが狙い。

- ・ 11月12日、格付け機関DBRSが、負債比率の改善、継続的な成長、適度な歳出増を理由に、QC州の格付けをAからAAに格上げし、見通しを「安定」から「ポジティブ」に変更。

- ・ 11月12日、サビア・ケベック預金・投資金庫（CDPQ）代表が、2021年の任期満了前の2020年2月に辞任すると発表。サビア氏はトロント大学マンク国際問題研究所代表への就任が決まっている。

- ・ 11月13日、フィッツギボン州経済・イノベーション大臣が、貨物飛行船開発の仏企業フライング・ホエールズ（FW）と同社がQC州に設立する子会社FWケベックに対し3,000万加ドルを支出する。支出はケベック投資公社を通して実施され、州政府はFWケベックの資本49%を取得する（残り51%はFW仏本社が保有）。プロジェクトは陸路による重量物運搬が困難な州北部等遠隔地での飛行船使用を目指す。

- ・ 11月20日、カナダ太平洋鉄道（CP）が、2013年に47人の死者を出す脱線事故を起こしたQC州ラック・メガンティックを含む、QC州から米メイン州まで約800キロメートルにわたる路線（Central Quebec and Maine Railway）を取得。これによりCPはNB州セントジョン港やメイン州の港へのアクセスが可能になる。買収額は明らかにされていない。CPは今回取得した路線の一部を90年代まで所有していた。

- ・ 11月21日、ジロー州国際関係大臣が国際的な会議やイベント誘致のための予算を現在の30万加ドルの4倍となる120万加ドルに増額すると発表。

- ・ 11月26日、労働組合チームスターズとカナディアン・ナショナル鉄道（CN）が、労働契約更新について原則合意に至り、11月19日から続いていた組合員3,200人によるストライキが終結。

- ・ 11月28日、カナダ競争局は、豚肉生産加工大手オリメルによる同業者Fメナール取得を承認。この買収により、オリメルは中国への豚肉製品輸出増を目指す。

（2）大西洋州

- ・ 11月4日、大西洋州経済評議会（APEC）が、2020年も大西洋州経済は好調が続くとの予測を発表。2020年の実質GDP成長率はPEI州2.8%、NL州とNS州2.4%、NB州1.4%となる見込み。好調の要因は、PEI州は移民による人口増と大型投資、NL州は石油と鉱山、NS州は給与、大型投資、製造、輸出、NB州は移民による人口増、住宅販売・着工。

- ・ 11月13日、国際海洋保護団体オセアナ・カナダが連邦漁業海洋省のデータをもとにした調査によると、カナダの魚の数は減少の一途をたどっている。大西洋ではホッコクアカエビやタラを始めとする24種類、太平洋では9種類が危機的な水準にまで激減しており、水産資源回復に向け確固とした取組無しには、この傾向が続くと予測。

（3）NL州

- ・ 11月12日、州最大の漁業組合である漁業従事者連合組合（FFAW）は、カナダ・ニューファンドランド・ラブラドル海洋石油委員会（CNLOPB）が公募中のジャンヌ・ダルク

海盆（ニューファンドランド島東方沖）油田開発許可の入札を取りやめるよう州政府に要求。同海盆はカニ漁が盛んな海域。

（４）PEI州

- ・ 11月4日、2019年に同州に上陸したクルーズ客数が、前年比31%増の12.8万人を記録。また乗組員数の上陸は5.5万人であった。
- ・ 11月5日、ギャランPEI観光局マーケティングディレクターが、今後日本市場向けに秋冬の紅葉・クリスマスシーズンの観光客誘致を目指す旨発言。
- ・ 11月21日、ハリファックスを含むカナダの複数都市で発行されている無料日刊紙「スターメトロ」廃刊に伴い、同紙印刷を請け負うTCトランスコンチネンタルが、印刷業務を同社ハリファックス工場に集約するためボーデン＝カールトン工場閉鎖を発表。
- ・ 11月25日、モンゴメリの「赤毛のアン」を基にしたCBCとネットフリックスの共同制作ドラマシリーズ「Anne with an E」が第3シーズンをもって打ち切り決定。地元観光業界からは失望の声。

（５）NS州

- ・ 11月3日、州東部キャンソ近郊に商用衛星打ち上げ基地の建設を目指すマリタイム・ローンチ・サービス（MLS）が、米ヒューストンのナノラックスと宇宙空間におけるロケット部品の再利用技術開発でパートナーシップを締結。
- ・ 11月12日、州ビジネス公社ノバスコシア・ビジネス・インク（NSBI）が、三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）ファンドサービス・リミテッド（ハリファックス）に対し、給与リベートの形で支出するインセンティブ協定を更新。このインセンティブは、同社が当初の目標よりも150人多い250人の従業員を雇用することを可能にする。
- ・ 11月19日、ハリファックスを含むカナダの複数都市で発行されている無料日刊紙「スターメトロ」の親会社トースターが、今年12月20日をもって同紙廃刊を発表。
- ・ 11月20日、かつてQC企業であったホームセンターチェーン大手ロナを2016年に買収した米国企業ロウズが、ハリファックスの3店舗を含むカナダ国内の34店舗を来年初めに閉鎖すると発表。
- ・ 11月29日、NS観光局の発表によると、今年6～9月の間に州を訪れた観光客数は前年比5%減にあたる6.3万人減の124.7万人であった。前年割れの原因はヤーマスと米メイン州をつなぐフェリー運航中止との見方。

（６）NB州

- ・ 11月6日、冷凍食品製造大手のマケイン・フーズが、州北西部グランド・フォールズの工場に新たな生産ラインを建設するため8,000万加ドルを支出すると発表。
- ・ 11月8日、水産大手のクック・アクアカルチャー（NB企業）のクックCEOが、組閣準備中のトルドー連邦政権に対し、カナダ大西洋経済開発庁（ACOA）担当大臣には大西洋州出身者を任命するよう呼びかけた。2015年から同庁の担当大臣はオンタリオ州出身のベイン氏。26日、ACOA担当大臣にモントリオール出身のジョリー氏が就任したことについてトルドー

連邦首相は、大西洋州出身議員を政務官に任命しジョリー氏を補佐させると発表。

・ 11月13日、鉱山開発企業グレンコアが、州北部ベルデューンの製錬工場を今年中に完全閉鎖すると発表。

・ 11月14日、州政府は、業績不振が続く大麻販売公社カナビスNB民営化に向けた事業者の公募を開始。カナビスNBは酒類販売公社リカーNBの子会社で、昨年10月の営業開始以来1,620万加ドルの赤字を計上している。

[在モントリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。 emagazine@mt.mofa.go.jp

○配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、 emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡願います。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○バックナンバーの閲覧は、以下のホームページからお願いいたします。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ（www.kantei.go.jp）

外務省ホームページ（www.mofa.go.jp/mofaj/）

在カナダ大使館ホームページ（www.ca.emb-japan.go.jp）

当館ホームページ（https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

当館 Facebook（www.facebook.com/JapanConsMontreal）

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333,

Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

（emagazine@mt.mofa.go.jp）までご相談ください。
